



System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-3299-10
2005 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	System Management Services (SMS) 1.5 Release Notes Part No: 817-7297-10 Revision A
-----	--



目次

はじめに v

1. System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって 1

SMS 1.5 の新機能 1

VCMON 2

A196 電源装置のサポート 2

ソフトウェア要件 2

Solaris 8 使用時の要件 2

Solaris 9 OS 使用時の要件 3

Solaris 10 OS 使用時の要件 4

SMS 1.5 で既知の制限事項 4

一般的な問題 5

smsconnectsc コマンド 5

再インストールとアップグレード 5

可能なバージョン切り替え 5

Solaris 8 上での ssh と SMS の併用 6

SMS マニュアルのパーツ番号 6

2. SMS 1.5 のバグ 9

SMS 1.5 ソフトウェアのバグ 9

バックアップ cpio 内に 4095 個を超えるファイルが存在すると
smsrestore が中断する (CR ID 6295142) 9

NetConnect に送信される FMA イベントレポートに、変更されたシャーシシ
リアル番号が報告されない (CR ID 5052078) 10

ndd/dev/scman man_pathgroups_report 出力は詳しい説明が必要であ
る (CR ID 6252771) 10

showenvironment を実行すると、ドメイン A にボードが割り当てられてい
ないという報告のあとレポートが出力される (CR ID 6299795) 11

SMS 1.5 ドキュメントの誤り 11

rcfgadm(1M) 12

testemail(1M) 12

System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル 13

System Management Services (SMS) 1.5 インストールマニュアル 14

はじめに

このマニュアルでは、System Management Services (SMS) 1.5 ソフトウェアに固有の情報を説明します。

お読みになる前に

このマニュアルは、UNIX® システム、特に Solaris™ オペレーティング環境のシステムでの作業経験を持つ Sun Fire™ システム管理者を対象にしています。このような経験がない場合は、まずシステムに付属の Solaris ユーザーおよびシステム管理者向けマニュアルを読み、UNIX システム管理のトレーニングの受講を検討してください。

次世代の Sun Fire サーバーファミリのすべてのメンバーは、ゆるやかに結合されたクラスタとして構成できます。ただしこのマニュアルでは、Sun Fire のクラスタ構成のシステム管理については解説しません。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号 ¹	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep ``#define \ XV_VERSION_STRING'

1 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_15K/SW_FW_Documentation/SMS/index.html

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
ソフトウェアの概要	Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要	817-4178-10	PDF HTML	オンライン
管理者マニュアル	System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル	819-3296-10	PDF HTML	オンライン
リファレンス (マニュアルページ)	System Management Services (SMS) 1.5 リファレンスマニュアル	819-3297-10	PDF HTML	オンライン
オプション	Sun Fire ハイエンド/ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	819-3187-10	PDF HTML	オンライン
	OpenBoot™ 4.x Command Reference Manual	816-1177-10	PDF HTML	オンライン
	Sun Fire 15K/12K システムサイト計画の手引き	816-2184-10	PDF HTML	オンライン
	Sun Fire E25K/E20K システムサイト計画の手引き	817-6855-10	PDF HTML	オンライン
	Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル	817-0746-10	PDF HTML	オンライン
	Securing the Sun Fire 12K and 15K Domains	817-1357-10	PDF HTML	オンライン
	Securing the Sun Fire 12K and 15K System Controllers	817-1358-10	PDF HTML	オンライン

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	説明
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF と HTML マニュアルをダウンロードする、印刷マニュアルを注文する
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	テクニカルサポートを受ける、パッチをダウンロードする、Sun のコースについて情報を入手する

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって』、part number 819-3299-10

第1章

System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって

この章では、Sun Fire ハイエンドシステム上の System Management Services (SMS) 1.5 に固有の情報として、以下の項目について説明します。

- SMS 1.5 の新機能
- ソフトウェア要件
- SMS 1.5 で既知の制限事項
- 一般的な問題
- SMS マニュアルのパーツ番号

SMS 1.5 の新機能

SMS 1.5 では、次の機能が追加されました。

- ドメインにおける Solaris 10 3/05 OS 使用のサポート
- UltraSPARC™ IV 1.5 GHz プロセッサのサポート
- NSA ドメインセキュリティー
- メモリーリフレッシュ速度の向上
- デフォルト設定としてシステムコントローラのセキュリティー保護を行う
- Solaris Security Toolkit™ 4.1.1 のサポート
- AVL 機能の強化
- 電圧コア監視 (VCMON)
- A196 電源装置のサポート

VCMON

SMS ソフトウェアに電圧コア監視パラメータ (VCMON) が追加されました。VCMON を有効にすると、プロセッサの電圧変化 (ドリフト) が監視されます。電圧の上昇を検知すると (これは、通常、ソケット接続に関連した問題があることを示す)、VCMON はユーザーに FMA イベントの発生を通知し、そのプロセッサのコンポーネント健全状態 (CHS) を **faulty** (障害あり) とマークします。

A196 電源装置のサポート

このリリースの SMS ソフトウェアは、Sun Fire ハイエンドシステム内の新しい A196 電源装置をサポートします。showenvironment コマンドは、A196 電源装置の存在を識別します。

A196 電源装置は、シングルグリッドモードまたはデュアルグリッドモードで稼働できます。つまり、2 つの独立した AC 入力による稼働にも、単一の AC 入力による稼働にも対応できます。シングルグリッド (シングル入力) オプションは、最大で 4 KW の供給が可能です。

2 つ目の AC 入力を取り外した場合は、4 KW 以上供給できるように、できるだけ早く元の状態に戻すことをお勧めします。

ソフトウェア要件

SMS 1.5 には、最小のソフトウェア要件があります。この要件はオペレーティングシステムによって異なります。

Solaris 8 使用時の要件

Solaris 8 OS 版 SMS 1.5 の最小要件は次のとおりです。

- システムコントローラ (SC) 上の Solaris 8 2/02 OS リリース。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。
- ドメイン上の Solaris 8 2/04 OS リリース。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。
- 両方のシステムコントローラ (SC) に同じバージョンの SMS ソフトウェアがインストールされている必要があります。

- 両方の SC に、更新バージョンとパッチを含め、Solaris OS の全体ディストリビューションソフトウェアグループがインストールされていること。パッチはすべて、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。
- パッチ:
 - 117002-01 パッチ。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。
 - 108434-17 パッチ (SC に必要)。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートしません。
 - 各ドメインに Solaris 8 用の 110826-09 パッチが適用されている (SC には不要)。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。
 - 各ドメインに Solaris 8 用の 111335-18 パッチが適用されている (SC には不要)。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。
- Solaris 8 版 SMS 1.5 は、次に示す Solaris ライブラリにバイナリレベルで依存しています。
 - /usr/lib/libnvpair.so.1
 - /usr/lib/libuuid.so.1
 - /usr/lib/fm/libdiagcode.so.1

これらのライブラリの修正は、それぞれパッチ 108528-24、115831-01、115829-01 で提供されています。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。

パッチは、SC とドメインの両方に適用してください。

- SC 上では、Java™ 1.2.2 がデフォルトディレクトリ (/usr/java1.2/bin/java) にインストールされていなければなりません。Java 1.2.2 は、通常、Solaris 全体ディストリビューションのインストール時にこのディレクトリにインストールされます。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。



注意 – Sun Fire Interconnect を使用していても SC に Java 1.2.2 がインストールされていないか、あるいは SC のデフォルトディレクトリに Java 1.2.2 がインストールされていないという場合、SMS は読み込みに失敗します。

- SSH 2.0 プロトコルをサポートするバージョンの ssh をインストールしてください。Sun 以外から市販されているものでも、無料版でもかまいません。Solaris 8 OS における ssh の使用についての詳細は、6 ページの「Solaris 8 上での ssh と SMS の併用」を参照してください。

注 – 可能であれば、オペレーティングシステムを Solaris 9 OS にアップグレードすることを検討してください。Solaris 9 OS には ssh が含まれています。

Solaris 9 OS 使用時の要件

Solaris 9 OS 版 SMS 1.5 の最小要件は次のとおりです。

- Solaris 9 4/04 OS リリース。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。

- 両方のシステムコントローラ (SC) に同じバージョンの SMS ソフトウェアがインストールされていること。
- 両方の SC に、更新バージョンとパッチを含め、Solaris OS の全体ディストリビューションソフトウェアグループがインストールされていること。パッチはすべて、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。
- パッチ:
 - 113027-03 パッチ。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。
 - 111712-12 パッチ (SC に必要)。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートしません。
- SC については、Java 1.2.2 がデフォルトディレクトリ (/usr/java1.2/bin/java) にインストールされていること。Java 1.2.2 は、通常、Solaris 全体ディストリビューションのインストール時にこのディレクトリにインストールされます。SMS 1.5 はこのリリース以降をサポートします。



注意 – Sun Fire Interconnect を使用していても SC に Java 1.2.2 がインストールされていないか、あるいは SC のデフォルトディレクトリに Java 1.2.2 がインストールされていないという場合、SMS は読み込みに失敗します。

Solaris 10 OS 使用時の要件

SMS 1.5 が現在サポートしているのは、ドメイン上における Solaris 10 3/05 OS の使用だけです。システムコントローラ (SC) 上での使用はサポートしていません。SC には、Solaris 8 OS または Solaris 9 OS を使用する必要があります。

SMS 1.5 で既知の制限事項

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SMS 1.5 に関連する既知の制限事項を説明します。

CR ID 6265544

SMS 1.5 は、Sun Fire Link wPCI ハードウェアをサポートします。しかし、SMS ソフトウェアは後続のバージョンをサポートしません。SMS 1.5 をインストールして Sun Fire Link ハードウェアとともに使用すると、wPCI ボードの電源投入時に SMS は次のエラーメッセージを表示します。

```
Detected Sun Fire Link hardware. Sun Fire Link hardware has been
EOL'd and may not be supported by future versions of SMS.
```

一般的な問題

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SMS に関連する一般的な問題について説明します。

smsconnectsc コマンド

smsconnectsc は、遠隔 SC がハングアップして、login では正常にアクセスできない場合に使用するためのコマンドです。smsconnectsc を使用してローカル SC から遠隔コンソールセッションを作成すると、ローカル SC は監視能力と監視機能を失う場合があります。システムの回復という明確な目的でない限り、smsconnectsc を使用しないでください。

再インストールとアップグレード

以前のバージョンの SMS では、Java™ WebStart GUI と pkgadd コマンドを使用して、SMS パッケージを Sun Fire ハイエンドシステムにインストールする方法がマニュアルに記載されていました。バージョン 1.3 以降の SMS では smsinstall スクリプトと smsupgrade スクリプトが導入されたことで、インストールとアップグレード処理が簡易化されました。このため、WebStart と pkgadd コマンドは現在推奨されておらず、マニュアルにも記載されていません。SMS の設定は複雑であるため、『System Management Services (SMS) 1.5 インストールマニュアル』に記載されている方法以外では、SMS 1.5 のインストールやアップグレードは行わないでください。他の方法を使うと、正しく設定できなかつたり、一部の機能が失われる可能性があります。

可能なバージョン切り替え

smsversion コマンドを使用することで、システム上にまだインストールされている任意の SMS バージョンに切り替えることができます。ただし、次の例外があります。

- SMS 1.4 から SMS 1.4.1 へのアップグレードは永続的な変更となります。いったん SMS 1.4.1 にアップグレードすると、SMS 1.4 に戻すことはできません。これは次のことを意味します。
 - SMS 1.4 から SMS 1.5 にアップグレードした場合、SMS 1.4 に戻すことができます。

- SMS 1.4 から SMS 1.4.1 にアップグレードし、続いて SMS 1.5 にアップグレードした場合、SMS 1.4.1 にしか戻せません。SMS 1.4 に戻すことはできません。
- SMS とオペレーティングシステムの両方をアップグレードした場合、オペレーティングシステムの旧バージョンを最初に再インストールしないかぎり SMS の旧バージョンに切り替えることはできません。
- SMS 1.5 から 1.5 よりも古いバージョンの SMS に切り替える場合は、Solaris Security Toolkit を使用して SC 上のセキュリティー強化を手動で解除し、その後もう一度強化処理を行なって再起動する必要があります。

Solaris 8 上での ssh と SMS の併用

SMS 1.5 パッケージをインストールする前に、SC へのシリアルアクセスかコンソールアクセス、または SC 上での ssh の使用が可能であることを確認してください。SMS 1.5 をインストールして SC を再起動したあとは、smsinstall スクリプトによる強化処理によってリモートアクセスが無効になります。この強化処理が行なわれるのは、SMS 1.5 にデフォルトでセキュリティー保護を行うという新機能があるためです。Solaris 8 OS を稼働させているシステムに ssh がインストールされていない場合は、コンソールケーブルを使用しないかぎり SC にアクセスできません。

Sun は Solaris OS に ssh ソフトウェアを提供していないため、ssh が付属している Solaris 9 OS へのアップグレードをお勧めします。Solaris 9 OS にアップグレードしない場合は、SSH 2.0 プロトコルをサポートするバージョンの ssh (Sun 以外から市販されているものか無料版) をインストールする必要があります。

注 – Sun 以外から提供されている ssh クライアントソフトウェアは、Sun のサポート外となります。

注 – SC で ssh を使用する場合は、SMS コンソールとの不整合を避けるため、ssh のエスケープ文字を変更する必要があります。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.5 インストールマニュアル』を参照してください。

SMS マニュアルのパーツ番号

このリリースのソフトウェアマニュアルは、以下の Web サイトで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_15K/SW_FW_Documentation/SMS/index.html

ファイル名にはパーツ番号が使用されています。これらのマニュアルタイトルに対応するパーツ番号は次のとおりです。

- 819-3299-10.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって』
- 819-3292-10.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.5 インストールマニュアル』
- 819-3296-10.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル』
- 819-3297-10.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.5 リファレンスマニュアル』
- 819-3304-10.pdf — 『Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要』
- 819-3286-10.pdf — 『Solaris Security Toolkit 4.1.1 ご使用にあたって』
- 819-3187-10.pdf — 『Sun Fire ハイエンド/ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』

注 – 現在、SMS ソフトウェア用として個別の Dynamic Configuration User Guide は出されていません。SMS の DR 情報は、現在、『Sun Fire ハイエンド/ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』に含められています。

第2章

SMS 1.5 のバグ

この章では、SMS 1.5 における既知のバグについて説明します。以下の項目を説明します。

- SMS 1.5 ソフトウェアのバグ
- SMS 1.5 ドキュメントの誤り

SMS 1.5 ソフトウェアのバグ

この節では、SMS 1.5 に影響する重大なバグについて簡単に説明します。

バックアップ cpio 内に 4095 個を超えるファイルが存在すると smsrestore が中断する (CR ID 6295142)

cpio アーカイブ内に 4095 個を超えるファイルが存在すると、smsrestore コマンドは失敗します。

回避策としては、不要なファイルを削除したあと、smsbackup を使用して cpio アーカイブを作成し直します。たとえば、ポストログやダンプファイルは不要であれば削除できます。各ドメインのポストログとダンプファイルは、それぞれ最高 1000 個に達する可能性があります。

NetConnect に送信される FMA イベントレポートに、変更されたシャーシシリアル番号が報告されない (CR ID 5052078)

setcsn コマンドを使用して SC にシャーシシリアル番号 (CSN) を設定せずに Sun Fire ハイエンドサーバーを稼働させると、ドメイン停止 (Dstop) 後に NetConnect に送信される Fault Management Architecture (FMA) イベントレポートでシリアル番号が空のままになります。

回避策: setcsn コマンドを使用してシャーシシリアル番号を設定し、そのあと SMS を再起動します。イベントレポートに CSN を表示するためには、SMS を再起動する必要があります。

SC にシャーシシリアル番号を設定する方法の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.5 インストールマニュアル』を参照してください。

ndd/dev/scman man_pathgroups_report 出力は詳しい説明が必要である (CR ID 6252771)

一部のデバイスドライバパラメータは、ndd(1M) コマンドをスーパーユーザーとして実行することにより読み取りと書き込みが実行できます。scman(7D) (ndd/dev/scman) は、Management (MAN) Network の Starcat SC 側を管理し、ndd(1M) コマンドをサポートします。

scman(7D) の man_pathgroups_report パラメータが正しく解釈されない状況が発生すると、実際にはエラーがソフトウェアに起因するにもかかわらず、一連のハードウェアエラーが発生したかのような報告がなされることがあります。その結果、問題の根本要因を除く手段としてハードウェア交換が必要であるという誤った結論が出される可能性があります。

man_pathgroups_report パラメータを指定した場合、次のような出力が得られます。

```
# ndd /dev/scman man_pathgroups_report
MAN Pathgroup report: (* == error)
Interface      Destination                Active Path    Alternate Paths
-----
scman1         Other SSC                   eri0 eri0 exp 0, hme1 exp 0 *
```

最後の行にあるアスタリスク (*) は、「hme1 物理インタフェースが前回使用された際にエラーが検出された」ということを示しています。これまでのところ、このエラーのほとんどはハードウェアではなくソフトウェアに起因しています。

ソフトウェアは、MAN ネットワークピアが「ハートビート」メッセージに応答しなくなるか、あるいは dlpi(7P) に不正な状態変異が発生するとエラーを引き起こします。前述のケースは、次のコマンドをスーパーユーザーとして実行することによって繰り返し発生させることができます (上記とまったく同じ出力が表示されていると想定)。

```
# ndd -set /dev/scman man_set_active_path '1 0 1'
```

コマンド (SC0 など) を実行する SC については、その Active Path は eri0 から hme1 に切り替わります。しばらくの間、SC1 は物理インタフェース eri0 上でパケットの送信を続け、SC0 は hme1 でパケットを送信します。すぐに、この 2 つは同じインタフェースを使用して同期をとり、通信するようになります。しかし、エラーが起きた最後のインタフェースを示すために、それぞれの SC にアスタリスクが示されます。この場合、エラーがソフトウェアに起因していることは明白です (つまり、このエラーは実際のところ「ハートビート」メッセージシーケンスに対する応答ではない)。これは、致命的なハードウェアエラーではありません。

致命的なハードウェアエラーが持続する場合はたしかに出力内にアスタリスクが示されますが、アスタリスクの原因がハードウェアだけにあると考えないことです。

showenvironment を実行すると、ドメイン A にボードが割り当てられていないという報告のあとレポートが出力される (CR ID 6299795)

Sun Fire システムのドメイン A からボードを除去し、続いて取り付けと割り当てを行い、その後 -d A オプションを指定して showenvironment コマンドを実行すると、次のようなエラーメッセージが返されます。

```
No board assigned to Domain A.
```

このエラーメッセージは正しいものではないため、無視してかまいません。この問題が起きるのはドメイン A だけです。

SMS 1.5 ドキュメントの誤り

この節には、SMS 1.5 のマニュアルページおよびマニュアルに含まれる誤りを記載しています。

rcfgadm(1M)

CR ID 4945049

rcfgadm(1M)のマニュアルページ内にある注記は、次のように訂正してください。

rcfgadm コマンドが失敗した場合、ボードはその元の状態に戻りません。dxs または dcs エラーメッセージがドメインのログに記録されます。エラーが回復可能なものである場合は、コマンドをもう一度実行できます。

コマンドを再実行する前に、ドメイン上の /etc/inetd.conf に次に示す dcs エントリが存在することと、それらのエントリが無効になっていないことを確認してください。

```
sun-dr stream tcp wait root /usr/lib/dcs dcs
sun-dr stream tcp6 wait root /usr/lib/dcs dcs
```

エラーが回復不可能なものである場合、そのボードを使用するにはドメインを再起動する必要があります。

testemail(1M)

CR ID 5047803

testemail(1M)のマニュアルページにある `-c` オプションの説明は、次のように訂正してください。

イベントを生成するために testemail が使用する **fault** クラス、またはコマンドで区切った **fault** クラスのリスト。

```
-c fault_class, fault_class, fault_class
```

有効な **fault** クラスの例は、ファイル /etc/opt/SUNWSMS/config/SF15000.dict に挙げられています。

CR ID 6221370

「説明」セクションの注記は、次のように訂正してください。

外部キャッシュリソースを使用して testemail を起動する場合は、外部キャッシュを搭載しているシステムボードに電源が入っていることを確認してください。このボードに電源が入っていないと、testemail の起動は失敗し、電子メールは生成されません。

System Management Services (SMS) 1.5 管理者 マニュアル

第 1 章、5 ページ:

VCMON の説明は、Sun Fire ハイエンドシステムに適したものになっていません。正しい説明は、この文書の 2 ページの「VCMON」に記載されています。

第 10 章、196 ページ:

showboards コマンドに関するこの説明で、-a オプションは -v に訂正してください。

showenvironment コマンドの説明にあるカテゴリ「デバイス」は削除してください。

第 11 章、207 ページ:

最初の例は、次のように訂正してください。

```
showlogs -d domain_indicator -p s
```

2 つ目の例は次のように訂正してください。

```
showlogs -d domain_indicator -p c
```

付録 A、253 ページ:

次のコマンドを追加してください。

smsinstall: SMS ソフトウェアをインストールします。

smsupgrade: システムにインストールされている既存の SMS ソフトウェアをアップグレードします。

付録 B (CR 6227544、4943474):

エラーコード 11300 と 50000 の間に、次のエラーメッセージカテゴリを追加してください。

11500-11699: EFHD メッセージ用に予約されている

11700-11899: ELAD メッセージ用に予約されている

11900-12099: ERD メッセージ用に予約されている

12100-12299: イベントユーティリティーメッセージ用に予約されている

12300-12499: Wcapp メッセージ用に予約されている

12500-12699: FRUID 関連のメッセージ用に予約されている

System Management Services (SMS) 1.5 インストールマニュアル

37 ページ:

手順 3 は次のように訂正してください。

`smsupgrade` コマンドを実行し、SMS をインストールし直します。

49 ページ:

手順 2 のあとに、次の内容で手順 3 を追加してください。

Solaris OS をアップグレードします。36 ページの「SC で Solaris OS をアップロードする」を参照してください。

手順 3 のあとに、次の内容で手順 4 を追加してください。

メジャー OS アップグレード (38 ページを参照) のあと、`smsupgrade` を実行して SMS をインストールし直すか、あるいは次の手順に進んで SMS 構成を復元してください。

見出し「SMS 1.5 ソフトウェアを復元する」を「SMS 1.5 構成を復元する」に変更してください。